

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200120		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホームみどりの		
所在地	群馬県高崎市井野町377番地3		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.jp/houkoku/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の清掃を徹底し清潔で高齢者施設特有の排泄臭のない入居者様が快適に生活できる居住空間作りを心がけている。午前には軽体操、読み上げを午後にはにぎにぎ体操を実施、固定化している。季節感のある絵・習字・工作・読み上げ文書き取りを職員が分担で担当し民謡、読み聞かせは月に1回先生に依頼し教室を開いている。各教室や体操を行う事で身体と共に五感を刺激し生きがいを持って頂く事で認知症の進行予防へと繋げている。誤嚥の予防策に毎食前の体操、口腔体操、歌、喉の冷感刺激を実施している。足腰が弱くなり排泄動作が難しくなってもできる限りトイレでの排泄を行う事で尊厳と意欲を失わないよう心がけている。食事は食材の購入からすべて職員が行い100%手作りの食事を提供する事で入居者様の一番の楽しみである食事を充実し食べる楽しみを失わないで頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、職員一丸となり「清潔感ある施設づくりをしよう」と整理整頓や清掃に力を入れており、快適な環境で利用者が生活できるよう支援している。このような空間づくりもあり家族も面会に来やすく、また、運営推進会議は家族の参加しやすい日時を反映させ出席率が高く、意見も多く出ている。このように家族の会議参加や日頃のコミュニケーションが多いため、事業所・家族・利用者一人ひとりも事業所全体をよくしていきたいといった基盤があり、今後更に地域住民との繋がりを強めて事業所全体の運営発展を具体的に検討しているところである。事業所は、介護の実際の基本となる介護計画の作成や実施、観察、評価といった一連の内容も無駄がなく、重点を捉え、職員も身に付きやすいシステムを独自に構築しており、日々の介護記録とも連動させて機能的なものにつくりあげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との繋がり入居者様ご家族への支援を意識した理念を作り玄関、ホールの2ヶ所に理念を掲げ常に理念を共有し実践に繋がるよう努力している。	理念は、町とのつながり・高齢者に尊厳とやすらぎの提供・家族に安心とゆとりと言った内容である。近隣住民と生活者として交流を持つこと、認知症介護といった一方的な関わりでなく、どのようにあるべきことがよいか、家族が安心できる情報提供を常に考えるといった具体的な実践を行い、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の方々に慰問に来て頂き入居者様も歌や踊りに参加し交流を深めている。 ・地域の中学生の職場体験を受け入れ交流している。 ・散歩や日光浴時挨拶や会話を日常的に交わしている。	事業所は、地域活動が少なくイベントを通しての関わりは少ないが、廃品回収や清掃活動の参加、中学生の職場体験や地域のボランティアの受入れなどの交流はあり、近隣から認知症の家族に対する相談を受けるなどのやりとりも見られる。今後、事業所を認識してもらうための自主イベントの開催や回覧板の活用を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ご家族や近隣の方で認知症の家族を持ち施設入所を検討している方等に認知症への理解を深めて頂けるよう話し相談にも適切なアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1度運営推進会議を開催し区長、民生委員、市職員、ご家族に参加して頂き、行事報告、事業の取り組み報告、職員の事、入居者様の状況報告をしそれに基づいた意見を交換し合いサービス向上に活かしている。	会議は、家族が参加しやすいようアンケートをとり曜日を調整し、半数以上が参加している。主に行事報告が中心だが、参加者から感想や意見が出やすいよう詳細に報告している。そのようなやりとりから、周辺の河川で囲いがなく危険な箇所があるため、区長を通じて行政に対応してもらおうといった事例も見られた。	会議録作成に当たっては、実際に出た質疑、意見、感想、それに対する回答や対応なども記載し、関係者共有意識のもと、サービス向上につながる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・不明な事や疑問点がある時は市の担当者に相談している。 ・事故があった場合は速やかに事故報告書を作成、今後の対応策も含め報告、相談している。	事業所は、他のグループホームを運営していることもあり出向くことも多く、事故報告の際は説明や相談のため担当者も交えて話し合っており、事業所の実情を理解してもらえるよう努めている。職員の研修参加申込みが間に合うよう協力してもらう機会もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・当ホームで身体拘束はしていないが、職員会議時に身体拘束について話し合い、更に知識と理解を深めている。 ・玄関の施錠はせず、入居者様が外に行きたい時は危険のないよう、見守りを徹底している。 ・身体拘束の外部研修に参加し、職員会議時に伝達している。	現在、身体拘束にあたるケアは行っていないが、実際のケアの中で、ヒヤリハット等の事例を通して身体拘束や虐待にならないか職員同士で話し合い、確認し合っている。拘束や虐待に関する研修に職員が参加し、職員会議で伝達したり、内容を回覧したりして、周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待に関する外部研修に参加し職員会議時に伝達したり、研修報告を回覧し職員全員に周知している。 ・言葉使いや、態度等各自が注意し合い虐待に繋がる事の無いように注意し、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修等に参加し職員会議時に伝達したり、研修報告書を回覧したりして職員全員が周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書に、契約の締結、解約、改定についての説明文を記載し、契約時にご家族には充分説明し、納得、了承して頂いた上で、署名、捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関の所に投書箱を設置し、当施設の苦情受付、市町村、県の苦情受付窓口の説明を契約時に行い、施設内にも掲示している。 ・運営推進会議時ご家族からの意見や要望をうかがい、運営に反映している。	家族の面会が多く、管理者以外の職員も、些細なことでも日頃の様子を報告できるように指導している。家族とは直接会ってのやりとりも多いため、利用者個人に関する意見や要望を聞くことができ、その都度対応している。	利用者個人に関する意見や要望に留まらず、事業所運営に関する意見を引き出す取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1回職員会議を行い、運営や、業務改善等、積極的な意見交換を行い、施設運営の向上に繋げている。	月に一度の職員会議で意見を聞く機会があり、休暇取得方法の変更や研修参加の促進の意見を探り入れている。また、年に2回を目安に理事長と個人面談する機会があるが、かえって意見が言いづらくなならないように日頃から理事長自身が職員の中に入り雑談するなど配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員(含パート)に改善手当を支給、資格保持者に資格手当も支給している。 ・勤務年数や、勤務態度に応じた昇給への考慮をしている。 ・外部研修の参加を奨励し参加費を支給し職員のスキルアップへの支援を行っている。 ・適時個人面談をし各自が向上心ややりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症基礎研修、実践者研修、管理者研修他様々な研修参加を奨励し研修参加を勤務として認め、職員の知識と技術の向上に努めている。又、カンファレンス時のミニ勉強会の資料として使用できるように法人独自の研修マニュアルも作成中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に入会、活動に参加し同業者との交流の機会にしており情報交換も職場のサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や抱えている問題、何をどうしたいのかを十分に傾聴し、ご本人が自分のペースで安心して生活できる環境作りを心がけ信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の抱えている困り事、悩み、不安、要望等を傾聴、共感し必要とあれば適切なアドバイスをを行いご家族から安心と信頼が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と十分に話し合いニーズの的確な優先順位を見極め、計画作成し支援を行っている。必要時、福祉用具購入の相談にも関わっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が現在どのような状況にあっても自分達より人生経験豊富な人生の先輩である事を職員は常に念頭に置き支援するだけでなく、入居者様からアドバイスを頂ける関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には必ず入居者様の様子を細かく伝え、又、入居者様が自宅でどのような生活をしてきたのかをご家族からうかがう事で情報を共有している。又、適時電話連絡をしご家族と共にご本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、友人や知人に連絡し面会できるようなセッティングをし、大切な人々との関係が途切れないように努めている。	知人・友人に書道作品で入賞したことを伝えて欲しいといった利用者の希望があり、連絡して事業所に来ていただき、祝ってもらったり、以前利用者が暮らしていた場所を外出先にしたりとか、細やかな要望や馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、慰問等に入居者様全員が参加できるような環境作りをしたり入居者様同士が楽しく会話ができるよう職員が橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談にのったり、退去後の様子を電話でうかがったりして契約終了後もできるだけフォローや支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族と小まめにコミュニケーションをとり、意向や希望を把握したり日々の些細な言動や行動の中から真意を探り出しご本人にとって何が1番なのかを検討している。	利用者ほぼ全員が、会話で希望や意向を伝えることができる。ただし、認知症状もあり、一人ひとりの言葉の裏に様々な思いがあると認識しているため、内容をそのまま受け止めず、発言された時の状況や前後も含めて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や聴き取り等から個々の生活歴や馴染んだ生活環境や暮らしを把握し今まで同様の生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送り等で入居者様個々の1日の生活のリズム、心身の状態、残存能力等の情報の共有と把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンス、モニタリングを行い、ご家族からの要望や意見もふまえて入居者様の現状に即した介護計画を作成している。	職員は担当利用者を1~2名受け持ち、事業所独自で作り上げたアセスメントを行い、会議で計画に関する意見を出し合い、計画を作っている。アセスメントも介護計画も3ヶ月に一度は見直し、介護記録には計画も添付して介護計画を意識した記録になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者差の心身の状態、介護計画に即した実践の有無、ニーズやできる事の発見等を細かくケース記録に記入し職員間で情報を共有し、モニタリングや計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問美容や、歯科の訪問診療の導入、ご家族の了承を得た上での買物等個々のニーズに沿った個別支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や近隣の方の慰問や、介護相談員が来所し傾聴する事でご本人の生活の励みになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望で受診先を決め、かかりつけの医療機関に相談する事で関係を構築し適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、家族の意向を尊重し、以前から受診していた医療機関を主治医としており、定期受診は、基本的には家族の介助で行ってもらっている。家族の都合がつかない場合は、職員が付き添うことも可能である。受診前の様子は記録して医療機関に伝え、受診後も報告書を作成しケース記録に収め、家族に報告する手順を踏んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で関わり得た情報を記録、報告し適切な受診ができるよう繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先にこまめに outgoing DrやNsから現状をうかがい医療相談員と退院後についての相談をしながらご本人にとって1番良い方向に繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で重度化した場合やターミナルについてのあり方をご家族と話し合い又適時確認し主治医に伝え方針を共有している。	事業所は、いわゆるターミナルケアは行わない方針を打ち出しており、入居時に伝えている。現在身体機能、精神状況などの重度化が進んでいるといった事例もないが、今後は家族の思いや要望も聞きながら事業所ができる範囲や、事前の説明をどの程度まで行うか検討する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命法の訓練をしたり救命措置の研修に参加している。又、緊急時の連絡方法等事務所に貼っておき個々で実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、1回は消防署立ち合いの訓練でその際には市職員や区長、民生委員、ご家族にも参加して頂いている。又、地震や台風などの災害時の避難場所等も事務所に貼っておき個々で把握している。	年2回の避難訓練は、そのうち1回を消防署立会いのもと夜間想定で行い、運営推進会議と合同で実施するなかで、参加者に実情を知ってもらう取り組みを行っている。また、実際の火災等の際は、近隣の方に利用者の見守りをお願いしたい意向を伝えており、理解してもらっている。毛布や非常食の防災用品の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格と尊厳を大切に、ご本人の自尊心やプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めており個人k情報保護のため、個人記録や連絡ノートにはイニシャルを使用している。	呼称は家族と話し合っ利用者名前で呼んで欲しいのか等、利用者一人ひとりを尊重して対応している。休息を促す声かけが、かえって人がその人の誇りを侵してしまった事例もあり、適切な距離感の重要性を再確認しながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に入居者様の声を聴き取りその言動や行動の中から思いや希望をくみとって入居者様自身が自由に自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活のペース最優先し、ご本人がその日一日を自分らしく過ごせるよう希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の愛用されている化粧品等を使用し整容して頂いている。月1回の訪問美容の際には希望に沿った髪型にもらえるようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何気ない会話の中から入居者様個々の好き嫌いを把握しメニューに生かし食事の際にはテーブルに職員が入り、一緒に食事して感想をうかがっている。準備や後片付けは強制せずできる範囲内でお手伝いして頂いている。	食材をバランスよく、利用者の好き嫌いは把握した上で職員が献立を作成している。毎食職員と一緒に食事を摂り、お茶の準備や後片付け・味付けといった役割を利用者に任せる、共同作業で行う等それぞれの力量に合わせた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食のメニューや摂取量を業務日誌に記録しバランスのとれた食事内容に繋げている。水分摂取にも気を配り、飲みやすい飲み物を提供したり夏場には麦茶のクーラーボトルを用意し好きな時に飲めるようにいたりスポーツドリンクのゼリーを作って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、見守り、指導し夜間には義歯をお預かりし義歯洗浄剤での洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。食事の様子から個々の口腔状態を把握し必要に応じ訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを活用し個々の排泄パターンや習慣を把握する事でできる限りトイレでの排泄が行えるよう努めている。歩行困難な入居者様には夜間にはポータブルトイレを設置する事で夜間でもトイレで排泄できるようにしている。	アセスメントによる排泄機能や排泄行動の把握も行うが、日常生活の行動から介助のタイミングを見極め支援している。また、入院中歩行困難でオムツ使用になった利用者にも、本人の排泄の意思の確認、下肢機能の安定を促し、トイレ排泄が可能となった事例もある。排泄の自立支援は、精神面のフォローも支援に合わせて行うことが重要だと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前午後と体操を行い、食事には繊維質の物を多く取り入れ、水分摂取の働きかけも行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきに入浴して頂いているが希望があれば毎日でも入浴して頂けるようにしている。又、身体の都合で入浴できない場合は全身清拭したり、入浴日以外はホットタオルを提供している。	利用者は、一日おきに入浴している。また、希望があれば毎日入ることできる。拒否や気が進まない利用者には、入るきっかけを様々検討して声をかけることで、入っていただいている。入浴時間は、利用者がゆっくりできる機会なので会話を楽しめるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の意思を尊重している。安眠できるように照明の工夫や室温や掛け物の調整を行い、不眠時にはホットミルクを飲んで頂き、よく寝つけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い「呼んで、読んで、よんで」の確認、最後まで飲み込み確認を行い服薬ミスのないよう努めている。薬の副作用が出た場合は速やかにご家族に伝え医療機関からの指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個々の好む事、得意分野、興味がある事を探り出し、一緒に考えたりアドバイスして楽しみ事や気分転換に繋がるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の会話の中で入居者様の行きたい所を探りだす外出レクや外食レクを行っている。又、ご家族の方にも協力をお願いしご本人の行きたい所へ外出できるようにしている。	気候のよい時期を中心に、散歩や外気浴に出かけたり、定期的に外出レクリエーションで利用者の家の近くの公園や花の名所に弁当持参で出かけたりしている。また、利用者の買い物にホームセンターへ外出支援をするといった個別対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の判断と個々の能力に応じて所持して頂いているがご家族が管理している事が多い。ご本人が所持している場合はご本人、ご家族の了承を得て保管場所を確認させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じて電話や手紙のやり取りができるように対応している。切手やハガキの準備や投函の要望にも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂ける様共有部分の環境整備に努め清潔で臭いのない施設作りを心がけている。ホールの窓は大きく開放感があり室内から外の様子を眺めて頂き、外の様子、木々、花々などから季節感を味わって頂いている。	共有空間には光が多く差し込むようにと、リビング兼食堂の一面はすべて掃き出し窓となっている。職員一丸で清潔感ある施設づくりをしようと清掃に力を入れており、便所やポータブルトイレ・台所やリビングなど特有の臭いが発生しやすい箇所の清掃の徹底を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とソファ(2ヶ所)が設置されており、テーブル席は個々の席が決まっており、ソファは自由に使用しくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、マットレス以外は全てご本人が使い慣れた物を持ち込んで頂き住み慣れた自宅に近い環境の中で居心地良く生活できるよう努めている。	事業所は、利用者それぞれが趣味や特技などを発揮できるよう、書道や手芸による小物制作などの作品を壁に飾ったり、作品づくりしやすい配置に居室を整えたり、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てでバリアフリーになっており、廊下の幅も広く車椅子でもスムーズに移動できる作りになっている。トイレの表示の他ホールには日付とその日の予定の書かれたホワイトボードや季節毎に入居者様の書いた絵や作品が掲示され季節や日付が判るようにしている。又、各行事の写真も掲示し張りのある生活に繋がっている。		